

森永芝浦ビル

Morinaga Shibaura Building

No. 13-081-2024作成

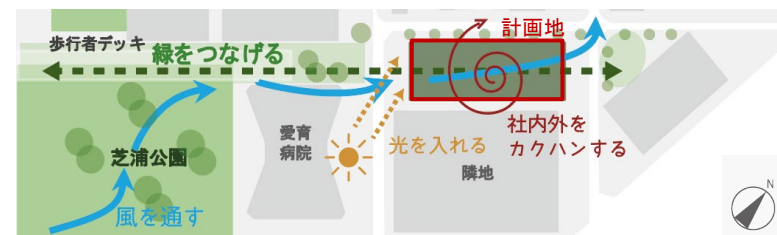
新築
事務所

発注者	森永製菓株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	株式会社竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社竹中工務店	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

地域の森としての環境共創型オフィス

ウェルネスカンパニーの実現拠点

食品・製菓企業の新社計画。人と社会と環境を健康にするウェルネスカンパニーの実現拠点として、多様な生態系が共生する森のように、自然環境を取り込み、社内外・地域と混ざり合い（カクハン）ながら様々な活動が創発する環境共創型オフィスを目指した。

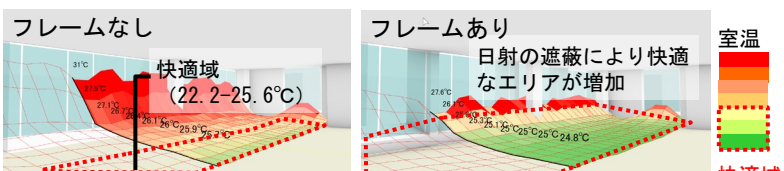


自然のゆらぎを映し内部に取り込む外装環境フレーム

外装の鏡面グリッドフレームにより、敷地内外の緑や空を映し込み、風景に溶け込む外装を実現した。また高層建物に囲まれた敷地において、水平フィンが日射熱を制御しながら室内に天空光を取り込むライトシェルフとして、垂直フィンは片引き窓へのウィンドキャッチとして、芝浦公園を通りビルの谷間を流れる卓越風を取り込み、2つの階段室エコポイドへと流れる中層オフィスにおける全館自然換気システムを実現。地域環境を取り込み、自然のゆらぎの濃さを重ねたワークプレイスを生み出している。



周辺外構の緑を映し込み、光環境を最適化する環境フレーム



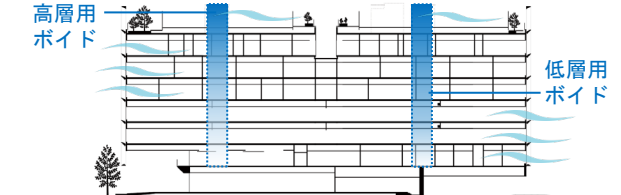
オフィス内ペリメーターゾーン的环境フレームの有無の温熱環境比較シミュレーション（夏期ピークのSET*で比較）



周辺の緑と空を映しこみ街に溶け込む外観

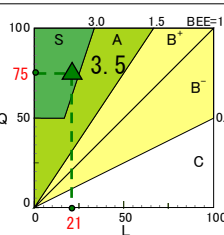


環境フレームで自然の光と風を取り込むワークスペース



2つの階段室エコポイドで上部への逆流を防止中層オフィスでの自然換気の最適化を図った

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	東京都港区	BEI値 (CASBEE準拠)
竣工年	2024年	0.47
敷地面積	3,328㎡	BPI値 (CASBEE準拠)
延床面積	15,611㎡	0.75
構造	地上S造一部W造、地下RC造、免震	LCCO ₂ 削減
階数	地下1階、地上7階	40%
		ZEB Ready認証
		CASBEE 建築+SWO
		Sランク



創業者出身の地の森林グランドサイクル®へ組み込む

創業者の出身地である佐賀県伊万里市の地元木材企業と協力し、建築主と共に伊万里市で伐採から植林までの活動を実施した。伊万里の杉材を都心の新社の内外装・構造材で活用し、創業者の想いを伝える木の空間を創出すると共に、地域の森林産業の活性化を実現することで、企業の社会貢献と地方の地域振興をつなぐ、都市と地方の新たな好循環を生み出している。



2022年11月木挽きの儀（伐採）2024年3月伊万里市での植林

森を活かし地域に開く

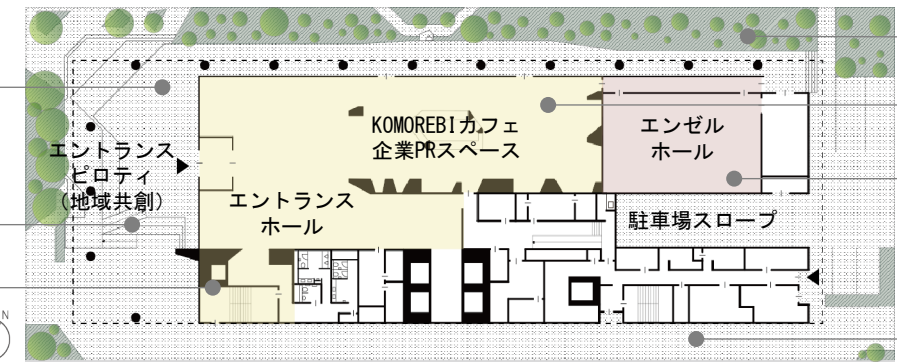
エントランスは「森の入口」として、多彩な活動を受容する地域共創の場とした。社員がワークスペースや店舗マーケティングとして利用したり、地域の人が気軽に立ち寄れるカフェ、エントランスピロティをイベント開催可能な半屋外空間としてしつらえ、2Fの社内共創スペースと一体利用することで社内外・地域が混ざり合う活動を誘発する計画としている。

地域共創の半屋外空間
エントランスピロティ
地域のイベントも可能

冠水対策のレベル差を利用し舞台として使えるアプローチ

イベント時1-2Fをつなぐ低層展望EVと階段

1F平面図 1/1000



地域のみどりをつなぐ
グランドスケープ

誰でもつかえるカフェ・企業PRスペース

カフェや企業PRスペースとの連携利用可能な多目的ホール

採光・通風のバッファゾーンとなる貫通車路

地域とつながる生物多様性のランドスケープ

地域に飛来する渡り鳥や蝶をリサーチし、地域の植生を中心に誘致目標種の好む木の実や花の蜜をつける植栽で林縁の環境を再現。屋上にはワークスペースや人間も食べられる果樹やハーブを植えこんだ菜園もしつらえ、周辺の公園とつながり大きな緑地帯を形成すると共に、自然と食のつながり、人と地球環境のつながりを感じさせる生物多様性のランドスケープとした。



林縁を再現する植栽計画

食に関わる菜園とワークスペース

設計担当者

建築：鈴木重則、加来真一、森稔、石井千晶/インテリア：常賀茂樹、小林奈七子/構造：小田島暢之、二木秀也、付轟森/設備：矢野諭、松倉想馬

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3.1. 生物環境の保全と創出（渡り鳥の生態を中心とした生物多様性配慮のランドスケープ）
- Q3.2. まちなみ・景観への配慮（周辺の緑地・空を映す外装、伊万里産材杉を使用した外構と環境運動照明）
- Q3.3. 地域性・アメニティへの配慮（地域共創スペース（カフェ）、イベント開催可能な軒下空間）
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制（環境フレームによる庇の深い外装）
- LR1.2. 自然エネルギー利用（ライトシェルフ、階段室を利用した自然換気システム、太陽光発電）
- LR3.3. 周辺環境への配慮（365日シミュレーションを活用した光害抑制計画）